

【記者からの質問】

<佐賀バルナーズについて(その1)>

朝日新聞／これまでの佐賀バルナーズへの支援の内容を教えてください。

知事／アリーナができるのでBリーグのチームをつくろうという動きは、県主導ではなく民間の思い。ハードとソフトが相まって、アリーナが輝くと考え、支援するようになった。佐賀市が拠点整備をしたが、紆余曲折あった。その中でも選手たちは志高くやっていた。

B2が決まり、プラザを使いたいと要望があった。佐賀市がホームタウンのチームなので、施設使用の環境を整えた。

サガン鳥栖が、いいビジネスモデルになった。ユースチームから活力あるチームになり、12年J1に在籍。そのノウハウをバルナーズに取り入れた。金銭的支援だけでなく、選手補強には口出ししないが、チームに来た選手に佐賀県ならではのフォローアップをしていく。知事自身が選手の中に入り込んでいくのは、なかなかないこと。

拠点を佐賀に移す久光さんとの連携もできている。今後も物心両面で、ウィン・ウィンの関係にしていきたい。

また、今回は県民が喜んでくれた。私たちはあくまでも“県民の幸せ事務局”。佐賀県では、民主導は難しいため、官民が一緒になった、地域が一体となった形がくれたらいい。

朝日新聞／B1に昇格するとレベルが高くなり、大きな壁が立ち上がる。今後の支援のあり方は？

知事／B1昇格後の支援のあり方を検討している。スター選手が所属するチームと対戦するため、様々な県の支援策を検討中。

<SAGA アリーナについて>

朝日新聞／雨天時の待機列の問題にどう対処するのか。ハード面の改善か、オペレーションで対応するのか。

知事／ソフトで対応したい。課題に対し、すぐにお金を使って解決するのは知恵がない。開場時間、どういう人をどこから入場させるか、並び方は、子どものファストパスは、と工夫する。トライ・アンド・エラーで試行錯誤し、ソフトで解決できない場合にハード整備を視野に入れる。

一番の課題は、佐賀でのおもてなし。宿泊施設が少なさやコンサートや学会開催時に、どのような方法で弁当を調達し提供していくのか。

長崎の新システムのように、民主導でやってほしい。まち全体で受け入れる体制は、

まだ発展途上。皆さんとともに楽しみながら、まちの発展に努めたい。

朝日新聞／長崎にも近々アリーナができる。今後アリーナを使い続けていく中で、効果を出し続けるために必要なことは？

知事／興行する皆さんに喜んでもらえるアリーナを官が造ったと自負している。裏動線も含め、あれだけ手の込んだ施設は簡単には造れない。

来年秋に長崎のアリーナがオープンする。規模的には佐賀より小さい。現在、NBA級のアリーナは、沖縄アリーナと太田市のアリーナと佐賀の3つ。

今後は、先行アリーナとして追随してくるところとの差別化を考えていく。常にブラッシュアップし、役所が造った施設だと批判がないよう、進化していきたい。

<オスプレイについて(その1)>

朝日新聞／これからの工事、運用が始まったあとの騒音や排水問題に対し、どうチェックし、問題があった場合に防衛省側にどういう形で臨むのか。

知事／様々な懸念の一つひとつ丁寧に応えていく。常に注意を払い、課題があれば、県が間を取り持ち防衛省に伝える。

県の思いには真摯に対応すると防衛省は言っている。これまで、私たちの要望を聞いてもらった。今後はお互い理解を深め、自衛隊の方々が気持ちよく働ける環境を整えていく。

朝日新聞／県民の懸念の1つは米軍の利用。地元漁協との協定では、常駐しないと盛り込まれている。常駐の定義とは？

知事／米軍は常駐しないと理解している。安全保障環境下で、日本の施設は利用可能なため、活用しないでほしいと再三申し上げてきた。状況や推移を観察し、問題が起きたら猛抗議をする。一律に、月に何日と測られるものではない。

朝日新聞／米軍の利用は、ほかの空港と横並びでと県は考えているのだと思う。それを超える場合は、どう対応するのか。

知事／喫緊にそのような状況にならないと思っているが、世界が激動している中で、安全保障環境は不透明。私が国防政策に必要以上の制限をかけるのは、国益、国民の生命、身体、財産を守るうえで問題がある。そうならないように、全力を尽くすことでわかっていただきたい。

朝日新聞／新駐屯地の格納庫には、20機程度しか入らず、外に置くと防衛省は説明している。防衛省は隣接地を買い取る予定にしている。将来的に、防衛省側が基地機能を

増強する場合の県の対応は？

知事／33haの敷地で、格納庫などの計画は、防衛省が考えること。先の話は、内容によって対応していく。

朝日新聞／状況に応じて対応するとは、駐屯地の土地を拡大することも許容するのか。知事／考えたくないが、私は「絶対」という言葉は使わない。今後、状況がどう変化するかは不明で、決め打ちはしない。

防衛省の説明を精査し、苦渋の判断の中、今回のことが決まった。これは重い決断で、私たちは忘れることなく、今後も防衛省と対峙していく。

<県立大学について>

朝日新聞／県議会で、県立大学の特別委員会を設け、議論の場として使っていくと決まった。県立大学創設の進め方やスケジュール感を教えてほしい。

知事／2月議会で県立大学の基本構想に向けた調査検討に要する経費の予算案を提出し、議会では予算は認めるが、さらに議論を進めるように提案を受けた。そこで、特別委員会が設置された。

基本構想の調査検討を進めるため、県内大学、産業界、高校からも幅広く意見を聞いている。議会や県民からも意見が出てくるだろう。それらを踏まえ、基本構想づくりに取り組む。

<オスプレイについて(その2)、佐賀空港の滑走路延長について>

NBCラジオ／オスプレイが配備されると軍民一体の空港になる。佐賀空港の民間空港としての発展を県民は願っている。どのような展望をもっているのか。また、滑走路が2,000mでは、路線誘致の障害になる。滑走路2,500mへの展望を聞きたい。

知事／防衛省との折衝では、民間空港の優先を認めてもらった。通常環境下では、民間空港としての発展が優先する。

コロナ前は、熊本や長崎、大分よりインバウンドが多かった。有明沿岸道路が延長し、地の利が影響したことと、アジアが発展し、アジアからのインバウンドが激増。九州佐賀国際空港の国際路線が、今後発展すると予想している。

その中で、滑走路の問題は大きい。大陸には、2,000mの滑走路はほとんどないため、佐賀空港には熟練のパイロットを使うという制約があるらしい。2,500m化に向け、今年からP Iと環境影響評価に着手している。できるだけ早く2,500m化を実施する。

また、福岡空港は22時までの制限があり、過密になっている。九州佐賀国際空港は、物流も含め無限の可能性がある。アジアの中で、いい立地にある装備を備えた空港に育てたい。

<佐賀バルナーズについて(その2)>

NHK/週末のバルナーズの試合では、どんな戦いを期待しますか。

知事/初戦はギブスが出ないと聞いているので、確実に取りたい。情報によると、アウェイブースターが押し寄せるらしい。来年BIで戦う者同士の接戦になるだろうが、連勝してほしい。

NHK/バルナーズへは、強化選手や施設の強化の支援をするのか。また、長崎も昇格し、今後、地域全体でどのようにバスケットボールリーグを盛り上げていくのか。

知事/BIは、東と中と西の3つの地区に分かれる。チームは東に偏っていて、西にはほとんどない。来年のBI西地区には、名古屋が入っているほど。その中で、九州から2つ昇格した。長崎と連携し、九州のバスケット界、プロバスケット界をけん引していく。

来年は、多くのスタープレイヤーもやって来る。アウェイから来る人々を西九州地域がいかに受け入れるのか。長崎と佐賀のブースターの行き来も含め、これから試されていく。

今度できるシティプロモーションやアリーナと、どう連携するのも含め、これからは楽しみであり課題だ。

<オスプレイについて(その3)>

共同通信/土地の売却をめぐる、地権者の一部が手続きの正当性に疑念があると主張している。手続きに関する正当性について、どうお考えか。

知事/当事者は防衛省。手続きについて県がコメントするのは適切ではない。あくまで防衛省と地権者との関係だと思う。

共同通信/県は、計画の段階で漁協に要請に行った。今回の土地問題では、県民の財産の売却でもある。県として何らかの見解を示すのは難しいのか。

知事/これは、法律関係の整理の問題だと思う。答えがはっきり出せる問題ではない。佐賀県は、国防の重要性を考え、防衛省の要請を受け入れるべきだと考えた。その観点から、今後も調整はしていく。

共同通信/昨日結んだ協定の中で、駐屯地が原因で漁業被害が出た場合は補償措置をするという項目がある。因果関係を示すのは、かなり難しいと思う。そのような場合、県はどのような関与をするのか。

知事/具体的な事例がない中で、軽々に申し上げるのはどうかと思う。いずれ、補償の関係も県と漁協と防衛省で協議会をつくることになっていて、基金を設立する。

基本的に、県は漁協に寄り添う立場。ある程度の蓋然性があれば、補償を基金から支払って、それについて防衛省に話をしていくこともできる。柔軟な形で県が間に立って進めたい。防衛

省も、できる限り漁業者の立場に立って活動や認定行為をしていただけるはず。

<SAGA アリーナについて(その2)>

佐賀新聞／アリーナへのアクセスは、子ども連れや高齢者が公共交通機関や徒歩では難しい。改善を望む声に対し、どうお考えか。

知事／障害者の皆さんへのアクセスポイントや駐車場はある。高齢者や徒歩が難しい人には、送迎エリアはあるが、さらにどのようなやさしいアクセスポイントをつくるかは、これから考えていくべきこと。

車で行きたい気持ちはわかるが、付近には病院もあり、渋滞によるリスクの方が高い。皆さんのストレスが少なく入場できる方法を考えなければいけないし、健常な人はできる限り歩いてほしい。15分という距離は、遠い距離ではない。広島球場も15分以上かけて、駅からみんな歩いている。

アリーナは、楽しむための施設。みんなにとっていい施設になるよう方向性を見出したい。

<西九州新幹線ルートについて>

西日本新聞／先日、JR九州の古宮社長が、現時点では「幅広い協議」に出る状況にはない。状況が整えば参加したいとの発言があった。それに対する受け止めを。

知事／特にありません。JR九州の収支改善の観点からすると、さもありなんということでしょう。私たちとは判断する観点が違う。私たちは県民優先で考える。現在、在来線は、特急や普通列車の環境が悪くない。それを壊すリスクが高いものには、総合的に判断をせざるを得ない。フル新幹線に踏み出すのであれば、全く価値の違う、将来に夢が描ける構図を示してほしい。

物事は、単一的な視点だけではないので、そのような観点で考えてほしい。